

農作物の生育状況、今後の見通しと対策(11月)

鳥取県農業気象協議会  
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まで)  
令和7年11月15日 現在

| 作物名   | 生育状況  | 今後の見通しと対策   |
|---|---|---|
| 作物  | <p><b>水稻</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 収量は、県全域で平年並からやや多い印象を農家が持っている様子。高温による白濁未熟粒発生の影響で品質が劣る傾向で、一等比率の低下が懸念される。</li> <li>• 豊空舞及びきめむすめは、ひとめぼれ・コンヒカリと比較すると一等比率がやや高い様子だが、今年度は、残暑の影響と収穫期の天候不順や倒伏も品質低下の要因となり得る。</li> <li>• 現時点の格落理由は白濁未熟が主体で、他に目立たない状況となっているが、カメムシ吸汁害による部分着色(斑点米)は少ない。</li> <li>• 全県的にイネカメムシの注意喚起を展開したため、防除が比較的徹底されたことで、不稔被害は抑えられている。</li> </ul>  | —   |
|   | <p><b>大豆</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 11月上旬から収穫が始まっており、中生品種のサチユタカで刈取作業が進みつつある。</li> <li>• 高温・干ばつの影響が要因として推測される落葉の遅れと不斉一が懸念されたが、全般的な登熟は比較的順調だが、湯水の影響が著しかった一部ほ場で落葉が遅れ気味である。外観上の着実数はほ場間差が大きく、高温の影響と推測される着実不良も見られる。</li> <li>• 中粒・小粒がやや多い傾向だが、収量は平年並が見込まれる。</li> <li>• 子実食害による被害や、雑草繁茂によって収穫困難となる事例も散見される。</li> </ul>   | —   |
|   | <p><b>麦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 平年は10月末～11月上旬にかけて播種作業が進捗するが、降雨の影響によって作業が遅れ気味であり、晴天期間を待って順次播種されている。現時点で播種盛期は11月中旬となる見込み。</li> </ul>   | • 排水対策を徹底し、苗立ちや初期生育を促す。   |
| 果樹  | <p><b>ナシ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 晩生梨「王秋」の収穫はほぼ終わり、「愛宕」等の収穫が行われている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 病害虫の越冬量を減らすため、落葉処分を徹底する。</li> <li>• コルク状果肉障害が発生した「王秋」園、樹勢低下園では土壌改良等を行い、根域や樹の健全化に努める。</li> <li>• 積雪に備えて、木の点検を行い、不良箇所の補修、網の収納等を行う。また、中柱(突き上げ柱)やモウソウ竹による支柱を入れる。</li> </ul>    |
|   | <p><b>カキ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「降太郎」、「西条」の出荷が終了し、「富有」が出荷中である。</li> <li>• 「降太郎」では、出荷量は、カメムシ・裂皮・鳥害・夜線等による減収が大きかった令和6年に比べると増加した。しかしながら、昨年種ではないものの9月の降雨による裂皮があり、令和5年の出荷量よりは減少となった。</li> <li>• 「西条」でも、昨年のようなカメムシによる大被害はなかったが、面積減や軟果等により出荷量は減少した。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 炭疽病の被害園では、せん定時に被害枝の除去および持ち出し処分を徹底する。</li> <li>• カイガラムシ等の対策として、冬季に粗皮削りを行う。</li> <li>• 積雪に備えて、モウソウ竹で大枝の突き上げをしておく(枝折防止)。</li> </ul>   |
|   | <p><b>ブドウ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本年度のブドウ販売は終了した。</li> <li>• 主要品種の「巨峰」、「ピオーネ」、「シャインマスカット」は出荷ロスが少なかったことなどから昨年よりも出荷量が増えた。</li> <li>• 「巨峰」、「ピオーネ」の肥大は良好だったが、「シャインマスカット」は肥大時期が猛暑と重なったことなどから、例年よりも小粒傾向だった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 病害虫の越冬量を減らすため、落葉処分を徹底する。</li> <li>• 次年の栽培に備えて、ハウスや網の点検を行い、不良箇所の補修、ビニールの収納等を行う。</li> </ul>  |
|   | <p><b>白ねぎ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【春ねぎ】<br/>8～9月定植では、8月下旬頃の豪雨により生育が停滞し、現時点も生育が遅れ気味である。</li> <li>• 葉枯病やボリチス葉枯病の発生が一部で見られるが、気温の低下により虫害は減少傾向。</li> <li>• 【夏ねぎ】<br/>6月どり(トンネル、無トンネル作型)の播種作業はほぼ終了。</li> <li>• 7月どりは播種が開始されている。生育は概ね順調。</li> <li>• 【秋ねぎ】<br/>夏夏高温により生育の停滞、最終土寄せの遅れから収穫時期も平年と比べて遅れている。</li> <li>• 10月の出荷は少なく、11月中旬から出荷量は増加する見込み。</li> <li>• 黒斑病、小園核腐敗病等が散見されるが、害虫は気温の低下とともに減少している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【春ねぎ】<br/>3～4月収穫分は年内(降雪前)に最終土寄せを行う。</li> <li>• 小園核腐敗病、さび病の防除を行う。</li> <li>• 【夏ねぎ】<br/>6月どり作型は11月中下旬から12月上旬頃に定植する。</li> <li>• 【秋ねぎ】<br/>雪害に備えて倒伏防止の支柱やバンドの設置を行う。</li> </ul> |
| <p><b>ブロッコリー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 早生品種の収穫中であるが、9月から10月にかけて曇雨天の影響で収穫は当初計画よりやや遅れている。病・害虫の目立った被害はない。</li> <li>• 11月上旬に一部で霰による傷が確認された。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 11月中、下旬から出荷量の増加が予想される。</li> <li>• べと病、花蕾腐敗病等の防除を徹底する。</li> </ul>   |   |
| <p><b>らっきょう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【東部】<br/>平年と比べ生育は遅れ気味。</li> <li>• 10月以降も比較的気温が高く推移し、ハモグリバエの発生が長引いており、防除が必要な状況。</li> <li>• 【中部】<br/>生育は概ね順調。11月10日前後に年内の追肥を終了した。ネギハモグリバエの被害が散見されるが、防除により大きな被害には至っていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【東部】<br/>白色疫病の防除を徹底する。除草を行う。</li> <li>• ハモグリバエの防除を徹底する。</li> </ul>   |   |
| <p><b>ミニトマト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 収穫終了となっている。気温の低下により果実の着色は遅れているが、11月上旬までの出荷量は前年並み。</li> <li>• くもり果(つやなし果)の発生が散見されるが、現状大きな問題にはなっていない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保温による果実の着色促進、換気による病害の予防のために適切なハウス管理を行う。</li> </ul>   |   |
| <p><b>にんじん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高温と干ばつによる発芽遅れからの生育遅れがみられたが、その後は順調に生育した。</li> <li>• 共通出荷は、昨年より2日遅い11/13から開始された。</li> </ul>   | —   |   |
| <p><b>いちご</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高温の影響で、定植は平年より遅かったことから、出蕾、開花も遅れている。</li> <li>• 「章姫」は平年並からやや遅い10月下旬から開花、「とっておき」は「章姫」より2週間程度遅い開花となっている。</li> <li>• 「望しろう」は開花が早く、11月上旬から収穫が始まったが、果実、株ともに小さい。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 収穫開始は「章姫」は11月下旬、「とっておき」は12月上旬と昨年より1～2週間遅れる見込み。</li> <li>• 気温の変化が大きいため、ハウスの温度、湿度の管理に注意する。</li> <li>• 次年度の観株を確保する。</li> </ul>  |   |
| <p><b>シンテッポウユリ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【ハウス抑制作型(中部)】<br/>出荷は8割程度終了。週3回出荷で日量1500本程度。</li> <li>• 目立った病害虫の発生は見られない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【ハウス抑制作型(中部)】<br/>夜間、締め気味で管理するハウスも多くなっており、葉枯病など病害の発生に注意する。</li> </ul>  |   |
| 花き  | <p><b>ストック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;東部地区&gt;<br/>彼岸出荷分の草丈は10～15cm程度で、目立った病害虫の発生は見られない。</li> <li>• &lt;中部地区&gt;<br/>花芽分化が、昨年と同様、平年に比べ大幅に遅れた。そのため、8月上旬播種では平年より5日程度、8月下旬以降の播種では平年より10日程度遅いため、開花は全体的に遅れる見込み。現在の出荷は、電照あり(開花促進処理)で8月10～15日播種分、電照なしで8月1～10日播種分である。</li> <li>• 平均単価はスタンダード系108円、スプレー系153円为好調。</li> <li>• 一部圃場でアブラムシの発生が見られる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;共通&gt;<br/>今後、気温低下とともに、灰かび病や菌核病等の病害発生も懸念されるため、防除を呼びかける。</li> <li>• &lt;中部地区&gt;<br/>開花遅れが懸念されるため、保温に努め、電照を使用して開花の促進を図る。</li> </ul>                                     |
|   | <p><b>アスター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 【ハウス抑制作型】<br/>8月下旬～7月上旬播種分の出荷は概ね終了し、現在は7月中下旬播種分が出荷されており、全体の7割程度終了。</li> <li>• 生育、病虫害ともに特に問題なし。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 出荷は12月まで続く見込み。</li> </ul>  |
| 飼料  | <p><b>イタリアンライグラス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 降雨の影響により、一部で3番草の収穫が遅れ、10月後半に実施された。</li> <li>• 播種作業については降雨により例年より遅れている。一部地域では現在も播種作業中である。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後の天候によるが、生育の遅れによる雪害が懸念される。</li> </ul>   |
|   | <p><b>飼料用トウモロコシ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 中部地域で飼料用トウモロコシの二期作刈の収穫中、生育は順調なほ場も見られるが、害虫被害や湿害等の影響を受けたほ場もあり、生育にばらつきがみられる。</li> </ul>   | —   |
| <p>【農作業安全について】<br/>- 日没が早いことから、夕方の道路走行時に車に衝突されないよう、トラクターに低速車マーク・反射板を装着しましょう。</p>  |   |   |